

＜ 商 業 ＞ 科 学 習 シ ラ バ ス

科目	簿記	学年・類型	2年生 ビジネス	単位数	2単位	教科書	簿記（東京法令出版）	
学習の到達目標		1 簿記に関する基本的な仕組みと技術を理解し、その基本的な記帳方法について理解させる。 2 適正な会計処理を行う能力と態度を育てる。						
評価の 観 点	A 知識・技術		B 思考・判断・表現		C 主体的に学習に取り組む態度			
評 価 の 内 容	個人企業における簿記に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、簿記の基本的な仕組みについて理解している。		様々な会計処理や記帳法について自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活かし適切に判断し創意工夫する能力を身につけているか。適切な会計処理を行う能力を表現できる。		個人企業の簿記に関心を持ちその知識と技能の習得を目指し意欲的に取り組むとともに、企業において日常的に発生する取引を適正に会計処理が行える。			
評 価 の 方 法	・学習活動への参加姿勢や態度 ・演習や実習への取組状況 ・予習や復習、課題への取組状況 ・ノート、レポート ・定期考査		・学習活動への参加姿勢や発言内容 ・予習や復習、課題への取組状況 ・ノート、レポート ・定期考査		・学習活動への参加姿勢や発言内容 ・演習や実習への取組状況 ・ノート、レポート			
学期	月	単元名・小単元名	学 習 の 指 導 内 容			評 価 の 観 点		
						A	B	C
1 学 期	4	企業の簿記 資産・負債・純資産 貸借対照表	・簿記の意味と目的を明らかにして、記帳の重要性を理解させる。 ・資産・負債・資本の意味を明らかにし、相互関係を理解する。 ・貸借対照表の意味を理解し、作成方法を習得する。			○ ○	○	
	5	収益・費用 損益計算書	・収益・費用の意味を明らかにし、純損益を計算する方法を理解する。 ・貸借対照表の意味を理解し、作成方法を習得する。			○ ○		
		取引と勘定	・取引により、資産・負債・資本が増減することを理解する。			○		
	6	仕訳と勘定への記入 仕訳帳と総勘定元帳	・取引を分解して、勘定に記入する方法を理解・習得する。 ・仕訳の意味を明らかにし、各種の取引の仕訳を習得する。 ・仕訳を勘定口座に転記する方法は理解させ、習得させる。 ・仕訳帳の形式・記入法を理解させ、記帳を習得する。 ・総勘定元帳の意味を明らかにし、仕訳帳からの転記の方法を理解する。			○ ○ ○ ○		○
	7	試算表 決算	・試算表の役割・種類・特徴を明らかにし、作成方法を理解する。 ・精算表の役割を明らかにし、作成方法を理解する。 ・精算表から複式簿記の仕組みを理解する。				○ ○ ○	○
2 学 期	8・9	決算 現金・預金の記帳 掛取引の記帳 商品売買の記帳 手形取引の記帳 有価証券の記帳	・決算の意味、必要性について理解する。 ・現金に関する記帳方法と現金出納長の記帳方法について理解する。 ・分記法の復習から3分法による商品売買の記帳方法を理解する。 ・掛け取引の意味と売掛金勘定と買掛金勘定の記帳方法を理解する。 ・手形の種類を明らかにし、約束手形の仕組みと記帳方法を理解する。 ・有価証券の意味と計算方法、購入と売却した時の記帳方法を理解する。 ・固定資産の意味と種類を明らかにし、固定資産の記帳方法を理解する。 ・売掛金・買掛金・受取手形・支払手形以外の各種の債権・債務について、その記帳方法や違いを理解する。 ・各種の債権・債務の記帳方法を習得する。			○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	
	10	その他の債権・債務の記帳 固定資産の記帳	・固定資産の意味と種類を明らかにし、固定資産の記帳方法を理解する。			○		○
	11	個人企業の純資産の記帳 決算整理（その1）	・個人企業の資本の元入れ、引き出しなどの記帳方法を理解する。 ・引出金勘定を用いた場合の記帳方法を理解する。 ・3分法による商品売買に関する勘定の整理、貸し倒れの見積もり、減価償却の記帳方法を習得する。 ・8桁精算表の意味を明らかにし、作成方法を習得する。			○ ○ ○		
	12	3伝票制による記帳	・決算整理を含む決算手続き全体の流れ、記帳方法を通じて学習し、損益計算書と貸借対照表が作れるようにする。 ・証ひょうと3伝票制伝票の意味と役割を明らかにする。				○	○
	3 学 期	1	総合問題演習	・学習した取引の記帳、決算の学習内容を総合的に復習する。 ・検定試験と関連させる。			○	
2		帳簿 決算整理（2）	・伝票の集計と転記の方法を理解する。 ・費用・収益の繰り延べ・見越しの意味とそれぞれの記帳方法を理解、習得する。			○		○
3		総合問題演習	・学習した伝票の学習内容を総合的に復習する。				○	
学習のポイント		・内容を理解できるまで、問題演習、実習に粘り強く取り組む。 ・授業のなかで、演習課題を確実に仕上げる。自宅で復習をし、分からない内容は質問を受ける。 ・基本的な知識・技能を身につけ、主体的に授業に取り組む。						